

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 13 号

Vol.13 2023年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

本年度をふり返って	飯沼一元…………… 2
只見線の旅	飯沼一元…………… 3
白虎隊出陣と終焉の地碑の企画	飯沼一元…………… 4
白虎隊出陣と終焉の地碑の序幕	飯沼一元…………… 5
寄稿1：洞門くぐりに参加して	星野紀子…………… 6
寄稿2：白虎隊の会イベントに参加して	伊藤 剛…………… 7



発行者 白虎隊の会

寄稿3：TVドラマ時代劇白虎隊

	飯沼一字…………… 8
寄稿4：徳川家康と会津	石田明夫…………… 9
おいでませ萩へ	原田靖子……………10
おいでませ美祢・下関へ	吉井克也……………11
下関支部だより	吉井克也……………12
本部便り	飯沼一元……………13
会員名簿……………	14 - 15
編集後記	飯沼一元……………16

今年度をふり返って

会長兼事務局長 飯沼 一元

コロナは3年目、ウクライナ戦争は2年目に突入し、日本は戦争の準備を開始しました。そんな中で本会は3年ぶりに白虎隊記念碑の設置に漕ぎ着けました。本会の目的は「白虎隊の『義』を後世に伝えることです。白虎隊の『義』とは「ならぬことはならぬ」の会津の教えであって、人として生まれた限り、あるべき規範を守り、筋を通した生き方を貫くことです。白虎隊士が飯盛山で自刃した理由は会津戦争で朝敵とされた理不尽に抗議し潔白を証するためでした。明治維新は我が国の大きな転換点でした。国際化を進める中で軍国主義が台頭し侵略戦争に進み、敗戦・降伏・民主化の道を歩みました。ウクライナ戦争

この戦争は独裁者プーチンのウクライナへの侵略戦争です。大義が無いウソつき戦争が特徴で。最大の被害者はウクライナ国民ですが、ロシア国民もまた被害者です。このような愚行はやがて歴史の裁きを受けますが、その中に私たちも含まれることを忘れてはなりません。ロシアとウクライナの血を引くノーベル文学賞作家のアレクシエーヴィチは「戦争を止めるためには一人一人がこの戦争を直視することが必要」と指摘しています。

岐阜郡上八幡の凌霜隊の碑を訪ねて

戊辰戦争で郡上藩は新政府軍に付くと同時に

凌霜隊を会津に派遣するという二股作戦をとりました。戦後帰藩した凌霜隊士35名は藩命に従ったにも関わらず脱藩の罪人扱いされ悲運の生涯を送りました。現地には碑があり、白虎隊と共に戦ったことが記されています。飯盛山には「道ハ一筋ナリ」の碑がありますが知る人は少ない。



凌霜隊の碑と説明板。郡上八幡城の観光の目玉は凌霜隊と白虎隊になっており参拝客が絶えない。

会津と長州の交流

会津戦争から百二十年経た昭和62年萩市から会津へ友好都市提携の申し入れがありました。市民の猛反発で頓挫しました。あれから35年、

萩の山本貞壽先生の尽力で交流は確実に進んでいます。本会も「世界平和」を目標に下関支部を中心に地道な活動を続けています。過去の戦争に拘泥するより未来を志向します。3年前の松平家当主に続き、このたび会津から山口への団体訪問があり、雪解けの兆候を感じました。



山口県長門駅に設置された観光案内図。中央に美祢市榑崎屋敷跡の恩愛の碑がある。

ホームページの充実他

当会のホームページを更新し、過去の記念碑設置状況をトップページに掲載し充実させました。

会報は本会会員を繋ぐ欠かすことのできない絆です。本年度事業に加え、会員3名から寄稿文を頂き、会津からの訪問記を加えてまとめました。

以下のページに内容を紹介します。

只見線の旅

会員 飯沼 一元（世田谷区在住）

一、はじめに

只見線は会津若松駅から新潟県魚沼市の小出駅までを結ぶJR東日本のローカル線。豪雪地帯や秘境を走行するため赤字線でありながら、国鉄の廃止対象から除外された。車窓から眺められる沿線の光景は美しく、只見川の渓谷美、新緑や紅葉が美しいことで知られ、SNSで海外にも伝わり、外国人観光客からも人気。会津若松・会津柳津（やないず）間は1928年に開業したが、田子倉ダム建設の専用鉄道など多くの追加工事を経て、1963年に国鉄線として開業した。しかし、2011年に新潟・福島を襲った豪雨により橋梁等が流出し不通となった。これらの苦難を克服し2022年十月一日11年ぶりに全線運転再開に漕ぎつけた。

二、旅支度

只見線の旅は2022年11月17・18の紅葉シーズンに決めた。車を使わないローカル線の老夫婦一泊旅行である。まず、安司さんに電話して趣旨を話すと、混雑するから宿の手配が第一とのこと、柳津のかわちを予約。送迎は日に2回だけと。東京からの路線は東北線の郡山から越線の越後湯沢へ小出経由であるが行帰りと後者にした。自宅からは小出まで3時間、只見線で柳津までは5時間もかかる。柳津観光が

イドを予約し、現地はタクシーで案内してもらうことにしたが、なんとタクシーは3台しかないとのこと。

三、出会い

案の定、席はほぼ満席。なんとか席を確保できてホットした。隣席の5人は分厚い資料を広げて議論開始。元国鉄職員で只見線の工事に関わったとのこと、難工事の歴史を解説してくれる。会津に入ってから白虎隊の話で盛り上がった。

宿では若いカップルと出会って、白虎隊に興味深々。スマホで早速貞吉本を注文するほど。

柳津の見どころは景色と圓藏寺（弘法大師の虚空藏菩薩で有名）と画家の斉藤清。中でも会津の雪景色をあたためたかみのある版画にした作品は忘れられない。森川敬寿氏の遠戚とか。

帰りは逆戻りのコース。升席に同席した二人は東京から来た鉄道写真家とのこと。出身大学が愚息と同じとかで親しくなり、後日写真を2枚送ってくれた。

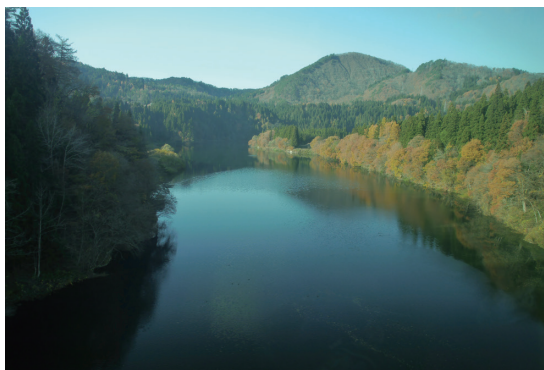
四、むすび

只見線は奥が深い。年間三百日は写真撮影を欠かさない人、毎日必ず乗車する人など魅せられハマった人がテレビに登場する。但し、年間20億円の赤字とのこと。只見線は白虎隊と同様に

に会津の宝です。両者を繋ぐ企画も検討したい。いろんな楽しみ方があるようなので、是非皆さんにお勧めしたいし、春にまた訪ねたいと思っています。



会津宮下駅のすずき



会津檜原 - 西方駅間 -

会津白虎隊の出陣の地と終焉の地 記念碑設置の企画

飯沼 一元

一、はじめに

白虎隊が出陣したのは慶応4年（1868）8月22日、飯盛山で自刃したのは翌23日なので僅か一日の出来事でした。出陣は、旧滝沢本陣跡なので本来はこの地に碑を造りたかったのですが、国指定の重要文化財のためできませんので良い代替案は無いかと検討してきました。今般石田明夫理事のご尽力により本陣と飯盛山の中間に位置する戸ノ口堰洞門入口近くの会津若松市水道局の敷地に記念碑を造ることにしました。

本会は、平成23年（2011）に飯盛山に白虎隊自刃理由の説明版を設置したのをはじめ、白虎隊戦闘の地説明版、白虎隊士生家跡碑七基の設置などを手掛けてきました。今回は第18番目の記念碑設置となります。

二、出陣の地と終焉の地説明板

慶応4年8月23日、会津藩白虎士中一・二番隊は藩侯の護衛として滝沢本陣に出陣。昼頃、十六橋方面から援軍要請があり、松平容保公から隊長日向内記率いる土中二番隊37名に対して出撃命令が出され、戸ノ口原に向け出陣しました、

滝沢街道を経て強清水の東側の菰土山（こもつちやま）に午後4時頃に到着、一隊はここで塹壕を掘り夜営しました。翌23日早朝、隊長が

戻らないという不測の事態に遭遇しましたが、一隊は二つに分かれ戸ノ口原にて新政府軍と交戦しました。しかし、人数と兵器の圧倒的な差により、退却を余儀なくされました。

篠田隊16名は帰城を目指しましたが、途中で道を間違え滝沢峠下で敵と遭遇し、一人が負傷したため、戸ノ口堰・飯盛山弁天洞窟に入り、洞窟をくぐり飯盛山に辿り着きました。飯盛山の自刃地から鶴ヶ城方面を見ると城下は砲煙に包まれていました。一同はここで、帰城か玉砕かを巡って激論を戦わしました。しばしの後、隊長代行の篠田儀三郎が「武士の自分を明らかにする」として自刃を提案。かくして一同列座し、鶴ヶ城に向かい遙拝訣別の意を表し、午前11時頃、従容として皆自刃しました。白虎隊の自刃理由は「城が落ちたと誤認して」が通説とされていますが、これは間違いです。会津藩は他のどの藩にも増して朝廷に忠誠をつくしました。それが、「朝敵・国賊」という汚名を着せられた理不尽に対する潔白の証として、白虎隊は自刃したのです。

なお、白虎隊士の殉難忠節に対し松平容保公が詠まれた左記の弔歌を説明に添えました。
幾人の涙は石にそそぐとも
その名は世々に朽じとぞ思う

源 容保



図1 戸ノ口堰・飯盛山弁天洞穴入口

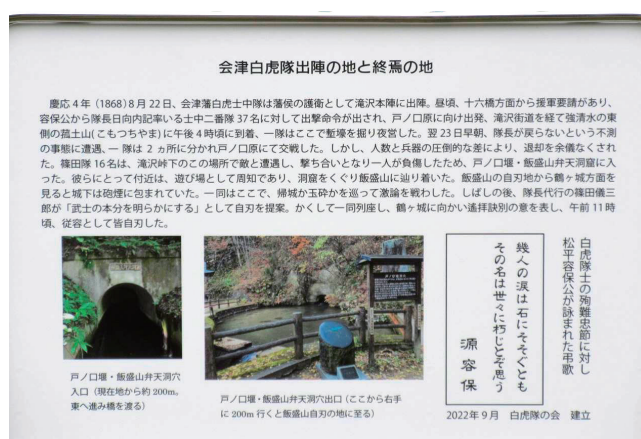


図2 設置した説明板

会津白虎隊の出陣の地と 終焉の地 記念碑序幕

飯沼 一元

一、説明板の設置

白虎隊の会では令和4年9月22日に戸ノ口堰入口の会津若松市水道局の敷地にある鉄柵に横60cm縦40cmの説明板を設置し、除幕式を実施し、することになりました。製作は長崎のアド・ホリエ社、施工は塩川の古川石材店に発注しました。当日、現地に行ってみると、サイズが小さく見劣りすることに気付きましたが、後の祭り。いずれは縦横2倍のものに差替えたいと考えています。

この時期は台風シーズンなので雨具や防寒具・長靴を用意しての参加でしたが、きわどく好天に恵まれ、天の味方を感じました。参加者は約30名で地元関係者の他に、遠くは岡山・京都・東京などから集まりました。

二、序幕式

地元からは室井照平市長・小熊慎司・菅家一郎衆議院議員・目黒章三郎元会津若松市議会議長・石田明夫白虎隊の会理事・森川敬寿会津支部長らに招待状を送り、全員が参加されました。司会は会津支部の永田清さんで、森川さんの開



図1 除幕式



図2 除幕後の記念写真



図3 福島民報掲載記事

会挨拶に続いて、飯沼が経緯を説明した後、6名で序幕しました。

その後、市長および2人の国会議員にご挨拶をいただき、参加者全員で記念撮影しました。メディアの取材はテレビユー福島(TUF)と福島民報でした。なお、TUFは洞門ぐぐりにも同行し、この日の行事をテレビ放映しました。

三、むすび

史跡造りは根気のいる仕事です。コロナが始まって三年。何をしようにも制約が出ます。でも、いずれ後世の人が「あれ！こんなところに看板がある。白虎隊ってドラマの出来事だと思っていたらリアルなんだ」などというシーンが現れるかも知れない。そんなことを思いながら次の記念碑の構想を練るのも楽しいものです。

洞門くぐりに参加して

会員 星野紀子（岡山市在住）

白虎隊士中二番隊の隊士たちが見た景色、通った道をたどることで、彼らの気持ちを想像する。飯盛山の洞門くぐりはまさにその体験ができる貴重な機会です。

飯盛山の洞門は、猪苗代湖から会津若松まで水を引く「戸ノ口堰」の一部。開墾事業は一六二三年から始まり、更なる水の安定的な供給のため、一八三五（天保六）年、八代藩主容敬公の命で五万五千人の手で大改修が行われ、飯盛山に約百七十mの洞門が掘られました。慶応四年八月二十二日、白虎隊は滝沢本陣から戸ノ口原方面へ出陣。翌二十三日、退却する隊士たちがまさに潜った洞門です。

二〇二二年九月二十二日の洞門くぐりイベントの直前に大型台風が接近し山陽新幹線は計画運休を決定。運休直前の列車に運よく乗車出来ました。台風を背に走る新幹線の中で、白虎隊が戸ノ口原で塹壕を掘っていた時は、相当な雨風で台風のような状況だったのだろうと思いを馳せました。イベント当日、無事に会津若松へ到着。レインブーツ、レインコートの万全な体勢です。

「白虎隊出陣の地と終焉の地記念碑」除幕式へ参加。猪苗代湖から引き込む水を特別に止めて頂き、水が引くのを待ちます。飯盛山の北側の洞門入口にて石田先生より解説を伺い、出陣。白虎隊が潜った当時の洞門は一部崩れていると

のこと。現在通ることが出来るのは昭和五十九年度に全面改修されたコンクリートの洞門ですが、大人が通れるギリギリの高さです。中はもちろん真っ暗。頭上からは水が滴り落ちます。足元はくるぶしぐらい水がある中を懐中電灯やスマホの明かりで照らしながらゆっくりと進みます。少し歩くと右手に壁のくり抜きがあり、覗くと隊士が潜った旧洞門が間近に見えます。かなり狭い空間でゴツゴツとした岩壁。古さが伺えます。私たちが歩いている場所は水が引いています。旧洞門は水でかなり浸っている状態です。

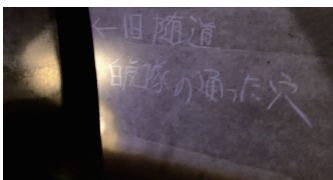
当時の状況を想像します。雨の中塹壕を掘り寒さ厳しく、体力を消耗し食糧はもう無い。そんな中、翌朝敵と応戦しやむなく敗走。滝沢峠の道で再び敵に遭遇、敵を避けるように暗く寒い洞門へ。かなり低い体勢でかがみながら、頭上にコウモリが飛び交う中、暗闇で声を掛けながら冷たい水の中を歩行したことでしょう。雨が降った後で相当水かさが増していたと思われる場所によつては顔まで水に浸かったのだと思われれます。本当に必死だったと思います。二か所目の旧洞門が見える箇所も更に空間の狭さを感じました。

旧洞門を見た後少し長い距離を歩くと、ようやく若松側の洞門出口へ到達。ここは当時と同じ出口です。普段は水が張っているのだから

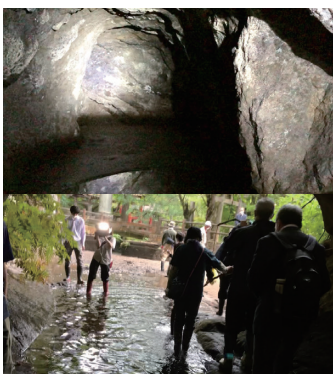
づらいですが、水を止めると洞門の出口はかなり高さがあり水の深さがわかります。日新館で水練を行っていたからこそ泳ぎ出られたのだと思います。

洞門出口からはしごで上がり、今度は隊士たちが自刃した地まで疎水沿いに歩きます。途中、飯盛山参道の石段中腹へ出ます。石段を横切り、更に疎水沿いに歩くと右手の木々の間から眼下に街道が見え、人の往来がはつきりと見えました。敵がなだれ込み城へ向かう光景が目視できたと実感できる眺めです。激しい憤りを思います。最期の地、飯盛山の中腹へ。開けた視界から硝煙に包まれる城下が見える距離です。当時二本の松があった場所で隊士たちは話し合い、敵に捕らわれる恥辱を回避し、武士の自分を明らかにするために自刃。想像を絶する精神力の強さです。

当時の場所をたどり、隊士たちの気持ちに寄り添い考える事が出来ました。洞門くぐりは三回目の体験でしたが、これからも機会があれば是非参加したいです。



白虎隊が通った穴



白虎隊の会イベントに参加して

伊藤剛（京都在住）

今回、飯沼様の快諾を得て、部外者ながらイベントに参加させていただきましたことを、大変うれしく思っています。私はもともと、幕末の歴史にさほど関心があったわけではないのですが、いつ頃からか、妻の影響で少しずつ興味をもつようになってきました。仕事の関係で伏見に行くこともありましたが、そこが「鳥羽・伏見の戦い」のあった場所とは、気にも留めませんでした。御香宮神社の駐車場をよく利用していました。そこに薩摩藩の本営があったことも知りませんでした。ところが、去年、所用で伏見に行ったおり、これまでなら、素通りしていた場所で、「会津藩駐屯地跡」という碑を見つけ、思わず写真を撮りました。私にとっては、新たな発見でした。

会津藩と白虎隊の歴史について、少し勉強したとはいえ、「出陣と終焉の地」と聞いてもその場所が思い浮かばず、戸ノ口原や強清水がどこなのか、また、飯盛山とどうつながっているのかわかりませんでした。それで「白虎隊が辿った道案内図」を見て、出陣路、退却路と飯盛山の位置関係、十六橋の場所などを把握し、イベントに臨みました。説明版設置場所までの車中で、少年たちはこの任務への誇りを胸に、戸ノ

口原に向かって歩いたのだろうと想像しました。除幕式の後、「弁天洞窟」を歩きました。当日、水はせき止められており、私たちは長靴に懐中電灯という恵まれた状態でした。しかし、当時、少年たちは、冷たい水が流れる暗闇の中、空腹や寒さ、不安に耐えながら、ここを進んで行ったのかと思い、少しは、疑似体験ができたような気がしました。飯盛山に辿り着いて、そこで激論を交わし、自刃にいたった少年たちは、まさに「ならぬことはならぬ」を実践したのだなと思いました。

無理が通れば道理が引込むことの多い現代こそ、会津藩の精神を大切にすると実感しています。

このイベントに参加したことは、私にとって、大変有意義なものでした。幕末の歴史をさらに勉強して、また、ゆっくり会津を訪れたいと思います。



会津若松駅にて



白虎隊出陣の地と終焉の地記念碑にて
(右は妻の京都支部会員麻弓)

TVドラマ時代劇「白虎隊敗れざる者たち」を見て

会員 飯沼 一字（仙台市在住）

明治維新に至る幕末の一大出来事、戊辰戦争を巡る物語をドラマ化したものである。放映は

BS12で2023年1月に第1話から第7話まで5日間に亘る全7時間の大作を無料で見れる。なお、3月に再放送された。脚本はジェームス三木。主役は、北大路欣也演じる、会津藩家老西郷頼母。松平容保が京都守護職を引き受ける際に、家老としてただ一人反対の意見を申し述べた孤高の家老、西郷頼母の姿を通し、幕末の会津を描いた物語である。

筆者は、白虎隊士の孫にあたり、そのような立場からこのドラマの感想を述べたい。多少批



筆者 飯沼一字
(いいぬま かずいえ)

判めいたことを書くことになるかもしれないが、ご容赦いただきたい。

まず、表題は「白虎隊」となっているが、ドラマ全体を通して「白虎隊」の影がうすい。もちろん、西郷頼母は幕末の会津にとって欠くことのできない、しかも一般には決して表舞台に登場してこないことが多い人物であるが、ここでは中心に描かれている。従来とはやや異なったある種の歴史解釈を示しているものかもしれない。また、西郷家の21人全員が自宅で自害したエピソードも、戊辰戦争さ中の悲惨な現実の一エピソードとして光を当てている。

時代考証、歴史検証がどこまでなされたかについてはやや疑問が残る。たとえば、証拠はないが、会津藩士の会話のなかで、「新政府軍・西軍」に対して「官軍」という言葉を使っていたとは思えない。また、西郷家の自害の場に、新選組、土方歳三が登場するのも違和感がある。

私がつとも強調したいのは、白虎隊士の自刃の理由である。「なぜ、白虎隊が飯盛山で自刃という結末になったのか」という疑問は、蘇生した飯沼貞吉以外全員死亡したことにより、解明されてこなかった。そのため、さまざまな憶

測、推測で語られ、その多くは、飢えと疲労で思考力が低下した結果、「若松城は落ちただろう。藩主容保公のもとへ」と死を急いだとの説が有力である。

「白虎隊の会」会員の方はご存じだろうが、2008年那須塩原市の飯沼貞吉の孫、飯沼一浩（私の兄）宅で発見された「会津藩白虎隊頼母略記（飯沼貞吉筆）」によると、飯盛山にたどり着いた隊士たちは、敵に向かって突き進むか、間道を抜けて城へもどるか、など「甲怒り乙罵り、激論以て之争う」と記されている。最後に篠田義三郎が、十数名では、突き進んでも城へ戻るにせよ、捉えられる可能性があり、武士の自分を明らかにするため、潔く自刃しようではないかと訴え、全員合意したと記されている。

自刃の理由がいまだに「早合点」説であることに違和感を覚えたのは筆者だけであろうか。多数の視聴者はTVドラマ（映画）をみれば、ストーリーが真実だと思ってしまうだろう。しかし、主人公に比較的近い子孫が存命であるような場合には、「あれっ、少し違うぞ」と感じる人が多いのではないだろうか。真実に近い（たがわない）ストーリーを心掛けるべきであろう。これは史実とフィクション（物語性）の狭間に悩むことなのかもしれない。

徳川家康と会津

理事 石田明夫

徳川家康は、天文十一年（一五四二）愛知県
の岡崎城で松平広忠嫡男（母水野大子）として
誕生。松平竹千代（次郎三郎、藏人佐）、元信、
元康、家康と改名。元和二年（一六一六）胃癌
で七四歳にて没し、静岡県の久能山東照宮に埋
葬、翌年日光に分霊されます。

蒲生氏郷との関係

天正十年（一五八二）本能寺の変で信長が死
去、家康は、天正十四年に大坂城で豊臣秀吉の
配下となります。天正十八年（一五九〇）小田
原の北条氏が敗れ、家康は江戸に移り、秀吉は
そのまま全国統一最後の地として会津に蒲生氏
郷を先頭に約五万人で入ります。氏郷は、鶴ヶ
城を改修する際、家康に相談、『徳川実紀』に氏
郷は「広島城のようにしたかったが、今ある城
を早く改修し堅固な城にしろ」と家康に言われ
ます。氏郷の嫡子秀行は、家康の三女振姫を娶
ります。氏郷が死去すると、大国の会津経営は
無理とみられ、秀行は宇都宮城へ移封となりま
す。

関ヶ原の戦い前後と会津

慶長三年（一五九八）、秀吉が死去すると家康
は、前田利家、上杉景勝ら五大老と石田三成ら
と対立、会津の上杉討伐令を出します。景勝、

直江兼続は、広島城に似せた平城で、鶴ヶ城の
二倍の大きさとなる予定だった神指城の築城を
中止し、作業にあっていた八万人から十二万人
を白河や南会津などの国境に移動します。防壁
を築き各地の城も大改修、家康との主戦場を白
河南の皮籠原としました。家康も栃木県内の城
を大改修します。七月二十四日、家康は栃木県
の小山まで進軍しますが翌日、三成の挙兵で西
へ反転、九月十五日の関ヶ原の戦いで勝利とな
ります。もし、白河で戦っていたら家康は敗北
していたでしょう。

会津生まれの天海大僧正（慈眼大師）

家康から家光に仕え、陰陽道をして江戸城下
づくりに関わったのが天海大僧正。『東叡山開山
慈眼大師縁起』に「陸奥国会津郡高田の郷にて
給ひ。葦名修理大夫平盛高の一族」、『会津正統
記』永禄二年（一五五九）船木少輔景光の嫡男
兵太郎としています。鶴ヶ城の前身黒川城三ノ
丸の如法寺別当をしていた時は「隋風」と名乗
っています。家康に見込まれ、天正十六年（一
五八八）埼玉県川越市の喜多院を改修し「天海」
と改名。寛永元年（一六二四）には江戸城の守
りとして鬼門に寛永寺を創建します。天海大僧
正両親の墓は、大正四年に会津美里町龍興寺境

内から発見され、母は十三代葦名盛高（一五一
七年没）末裔の娘です。

柳津田蔵寺再建・赤べこと家康の娘

柳津町の圓蔵寺虚空蔵堂は、慶長十六年（一
六一一）の慶長会津大地震で倒壊。そこで本堂
を建て替えることになります。『揚津秘録』に
「元和三年（一六一七）蒲生秀行室で家康の三女
振姫（側室於愛・竜雲院の娘）が殿堂建立、其
時の別当住持有栄和尚也。普請奉行は外池伊織
介、村田喜平衛」と、蒲生秀行夫人振姫が堂の
再建に関わっています。伝承に堂を再建する時、
只見川から材木を運び上げるのに苦労してい
ると、どこからともなく赤毛の牛「赤べこ」（赤
牛・朝鮮べこ、といった）が現れ、材木運搬を
最後まで手伝い去って行き、そのため堂は完成
したという。黒い斑点は、正徳三年（一七二三）
に流行した疱瘡（天然痘ウイルス）除けのしる
しです。

家康の孫、保科正之

会津松平家藩祖の保科正之は、家康の孫であ
り、二代將軍秀忠の子で、慶長十六年（一六一
一）五月七日に生まれ、三代家光とは兄弟です。
寛永二十年（一六四三）山形から会津二十三万
石の藩主となり、江戸幕府を支えたのです。

おいでませ 萩へ 会員 原田靖子（萩市在住）

一、はじめに

会津の滝沢洋之氏からの年賀状に「よろしく」の書き添えがある。何のこと？早速滝沢氏に電話してみる。ご自身の主催「会津と萩の交流を考える会」総勢18名で萩に来られるとのこと。会津と長年交流されている山本貞壽先生、松陰東北の旅で交流のある山中信介氏と私とで話し合いを持つこと四回。山本先生は医師、診察、訪問診療、コロナ診療と多忙を極める中で適格なご指示を頂いた。令和5年2月14日からの2日間の行程が出来上がり滝沢氏からの了解を得た。

二、初日の夜の宴会

萩からは「男なら」を見せたいと山本先生。「男なら」は山口名物の民謡踊りで、馬関戦争で男は皆下関に戦争に行きましたが、萩は女が守るという萩女の心意気を歌った踊りで、地元の有志の方々が披露してくださいました。なお、女台場はその時造られた丘です。当日は生憎の雨



原田靖子
(ノブコ)

でしたが会津からは小椋ご夫妻から玄人肌の会津民謡が披露され宴会は大いに盛り上がりました。

三、二日目

滝沢氏からの要望もあった、白虎隊の石版画で有名な唐樋町の地藏堂を案内しました。当日は雪の舞う萩でもなかなかの寒い日でしたが、毎日のお掃除をされる町内婦人部方々、石版画を持って会津を訪ね飯盛山の白虎隊の墓にお参りした町内有志の方々他がお迎えしました。町内会長および田中文夫萩市長からの歓迎の言葉を頂いた後、石版画を見ながら皆さんにお参りして頂きました。

次に足早に明倫館跡、明倫小学校を利用して観光の拠点となっている明倫学舎に移動していただきました。ここでは、長年に亘って会津との交流を推進された野村興児前萩市長の歓迎の言葉を頂いた他、会津と萩にまつわる話を以下の3人にして頂きました。石版画の話や日新館と明倫館の話は山中氏、歴代藩主との姻戚や明倫館と会津の人との交流は吹上終身氏、戊申戦争で若者が持って帰った分踊りの話は中原正夫氏。会津の方には新鮮な話ではなかったでしょうか。

昼食後は図書館で山本先生の寄贈の会津関連本の書棚を見て頂きました。これは会津前高谷医師会長と萩医師会長であった時の山本先生の

ご縁で実現しました。萩の方は会津の本が読みたければここに来れば読むことができるのです。なお、昭和30年代に会津図書館長を務めた大村武一氏は萩図書館長から会津に迎えられ生涯会津で暮らしました。

図書館を後に大照院での奥平謙輔の墓参り、歴代藩主の墓参りを案内。足早に松陰神社参拝と松下村塾講義室へ上げて頂いての逸話を聞き、松陰の墓、誕生地へと向かいました。この場所は萩城下を見下ろし、日本海の見える場所です。

四、むすび

二日目は終日山口テレビおよび新聞に密着取材していただきました。テレビは2月23日に放映されました。長州と会津の繋がりは他にも沢山あります。会津の皆様、萩への印象は変わってでしょうか。



おいでませ美祢・下関へ

一、はじめに

令和5年二月一七日、飯沼会長の紹介で元会津会幹事長の山内裕正様が、美祢市と下関市を訪問されました。私共下関支部は、顧問の藤田副部長の渡部、事務長の河本と支部長の私吉井がお迎えしました。

二、櫛崎屋敷跡

櫛崎屋敷に到着すると、まず、見知らず柿に注目され、「大きく育っていますね。あの枝に柿のへたがついている。今年は実がついたのですね」などと言われながら、その成長ぶりを大変喜んでおられました。その後、恩愛の碑の除幕式の様子や高見フサ口伝などの説明を聞かれたり、芳名版の会津関係者の名前を確認されたりしながら、頼三と貞吉以外にもしばし歓談をいたしました。

三、会津と長州の関わり

「奥平謙輔と山川健次郎」「乃木希典山川健次郎」「乃木希典と松平英夫」「松平英夫と山田顕義」「日下義雄と井上馨」等々話はつきませんでした。そして、戊辰七〇年にあたる昭和一二年の會津会では、山田伯爵（長州の山田家に婿養子に入った松平英夫）が挨拶の辞を述べていること。その中で戊辰戦争後に味わった辛酸。薩長閥が幅をきかせている陸軍軍人時代の苦労。松平勢津子妃と秩父宮家親王とのご成婚の慶びに加えて、戊辰戦争当時の敵味方の英霊を慰め

下関支部長 吉井克也

る祭典に列した喜びを述べているなどの貴重なお話を伺いました。



恩愛の碑の前で
右から渡部、山内、吉井、河本



万骨塔の前で
左山内、右吉井

の中にある「水師營の会見」後に撮影された乃木將軍を中心にした集合写真に副官松平英夫氏の姿があり、會津と長州の交流について再び話が盛り上がりました。

二月二〇日には、下関の會津？を藤田顧問共々ご案内しました。最初に、飯沼貞吉初任の地（元赤間関通信局、現田中絹代文化館）、続いて長府万骨塔を訪問しました。この塔は、敵味方の別なく国に殉じた人々を祀るために、全国から靈石を集め建立されたものです。ここには、福島県の靈石と飯盛山で自刃した白虎隊士、廣澤安任の靈石も建立当初から安置されています。さらに平成二三年十月には、山川健次郎の靈石が新たに安置されました。山内様は、「万骨塔の趣旨」や「万骨塔の大きさ」に感動しておられました。次の乃木神社では本殿参拝後、資料館

最後に、旧会津藩士神戸岩蔵（会津藩間諜）の眠る道玄堂山にご案内しました。ここは旧長府藩の処刑場で罪人墓地です。岩蔵墓に辿り着かれると線香を手向けられ合掌されました。岩蔵さんもさぞ喜ばれたことと思います。なお、岩蔵については会報2号又はHP参照のこと。

四、むすび

山内様には、この二日間、沢山のお話を聞かせて頂き、大変楽しく充実した時間を過ごさせて頂き有難うございました。これからも、會津関係の皆様方が、「長州の中の會津」を訪ねてくださることをお待ちしております。

下関支部便り

支部長 吉井克也

一、はじめに

今年度も下関支部はコロナに振り回された一年でした。しかし、「恩愛の碑の趣意」に共感を抱かれた方々が、各方面に様々に発信してくださり、この碑の認知度が高まりつつあることをとても嬉しく思っています。

本年度は、滝沢洋之先生著「河井継之助と会津」に白河市の安司弘子さんが『会津と長州をとりまく私の縁』を寄稿してくださり、山口県下松市の田村悌夫先生は『恩愛の碑』(戊辰戦争秘話 白虎隊士飯沼貞吉と長州藩士櫛崎頼三)を総合文芸誌「新紫南」に掲載してくださいました。お二人に心から感謝申し上げます。また、2月には、会津会前幹事長の山内裕正氏が美祢市下関市を訪問されたことも、下関支部にとって大きな喜びでした。(詳細は「おいでませ美祢・下関へ」参照)

二 本年度の主な活動

- ・ 五月六日 神戸岩蔵墓参道筍切り
- ・ 六月四日 神戸岩蔵墓整備活動
- ・ 美祢市恩愛の碑整備活動
- ・ 八月二日 神戸岩蔵墓参
- ・ 八月十八日恩愛の碑周辺草刈と参拝
- ・ 九月十九日台風十四号により櫛崎屋敷庭の泰山木の太木が倒伏。美祢市が

全面的に復旧。

- ・ 十月二十三日赤間関街道リレーウォーク第二ステージ四五名が恩愛の碑参拝。ガイド

- ・ 十一月六日 赤間関街道リレーウォーク第三ステージ四七名に恩愛の道ガイド

- ・ 二月一七・二〇日山内裕正氏美祢・下関を訪問・案内

- ・ 二月一八日下関支部役員会
- ・ 二月二五日下関支部総会

山内氏の神戸岩蔵墓参



2月20日会津会の山内裕正様が墓参され線香を手向けられました。

三 おわりに

国際社会に目を向ければ、多くの国々が国内で分断と対立を深め、さらには、もう二度と起こらないであろうと思われた大規模な戦争が生じ、日々多くの人々の尊い命が失われています。そして我が国も、「戦争をしない国」から自衛のためという理由で「戦争ができる国」へと国の方針を急転換しています。私たちは今こそ、幕末・明治維新期以降の我が国の歴史に目を向け、謙虚に学びなおす必要があるようです。



恩愛の碑整備活動(8/18)の参加者13名

本部だより

1. 会員

2022年度の新入会員は6名（昨年比（+4））でした。逝去者は1名、退会者4名で共に名簿から削除しました。その結果、2023年3月末現在、名簿登録会員数は104名（+3）となりました。内訳は一般73（+4）、特別会員（役員を含む）31（-1）。地域別内訳は会津21（+1）、東京38（+2）、下関13（0）、京都5（-2）、長崎4（0）、仙台7（0）、その他16（-2）名となりました。

2. 活動

主な活動実績は表に示すとおりです。

年月日	主な活動（予告を含む、青字は本誌に掲載）
2023年9月24日	（予定） 戊辰 155 年会津藩子孫隊の出陣に参加（会津若松市）
2023年9月22日	（予定） 会津本郷焼と電信用碍子記念碑序幕（会津美里町）
2023年4月24日	（予定） 春の飯盛山墓前祭
2023年4月16日	（予定） 会報第13号発行
2023年4月2日	年次総会（インターネットで）
2023年3月15日	会報第12号（資料館に掲載）
2022年9月22日	白虎隊出陣・終焉の地記念碑序幕および洞門くぐり（会津若松市）
2022年4月16日	会報第12号発行（資料館に掲載）
2022年4月2日	年次総会（インターネットで）

3. 決算報告

今期は事業関係の支出はありません。広告費は会津会々報に毎年見開き2ページの広告を出稿しています。多額のご寄付を頂いた方に感謝申し上げます。

白虎隊の会		貸借対照表		単位 (円)	損益計算書			単位 (円)
資産の部	1,806,409	負債の部	0		収入の部		支出の部	
現金及び預金	1,806,409	未払金	0		会費	354,000	HP 管理	66,825
未収入金	0	負債の部合計	0		寄付	165,000	会誌発行	70,592
		前期繰越残高	1,606,712		書籍代	23,000	広告費	40,000
		今期損益金	199,697		会報売上	0	説明版設置	136,730
		次期繰越残高	1,806,409		助成金	0	通信費他	28,156
資産の部合計	1,806,409	負債純資産合計	1,806,409				今期損益金	199,697
会計監査	令和5年3月31日現在				合計	542,000		542,000

会計監査

令和3年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和5年3月31日 会計監査役 森川 敬寿

4. 2023年度の計画

新規会員獲得目標5名、総事業費は50万円を予定。

1. 会津美里町に会津本郷焼と電信用碍子の記念碑を設置し序幕（飯沼・石田他）
2. 白虎隊出陣・終焉の地記念説明版の大型化（飯沼・石田・森川他）
3. 戊辰155年子孫隊出陣の協力・調整（飯沼・森川）ほか

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、17名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで、会津の教え、を健気にも最後まで守り通しました。

会津の教え、とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

コロナ4年目、ウクライナ戦争2年目を迎え我が国も戦争の準備を開始しました。第一次・二次世界大戦で7,000万人もの命を奪った反省のもと、100年かけて自由と平和を希求してきた世界に対して、歯車を逆回転させる勢力が台頭しています。自己の利益を優先する限り争いは収束しません。白虎隊の会は世界平和を求めて活動します。理不尽な振る舞いを断じて許すことはできません。

私たちは先人の多くの犠牲と先人が残した知恵の上に生きています。

「ならぬことはならぬ」という「筋・ケジメ」の大切さを実感します。

戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて13年。“義”に生きた白虎隊士の思いを現代に伝えたい。

会誌第13号を皆さんの協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、老骨に鞭を打っています。

2023年4月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千元です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 □座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654
発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページを変更しました：<http://byakkotai.club/>

検索